

1. 実況上の着目点

- ① 西日本付近の高気圧が東へ移動。日本付近は高気圧に覆われ、広く晴れている。
- ② 500hPa 5700m付近の華中の正渦度極大域が東進。
- ③ 500hPa 5100m付近のトラフに対応したオホーツク海の低気圧が北東進。①の高気圧との間で気圧の傾きが急となり、北日本では、13m/s前後の風を観測。アムール川中流付近の低気圧が東南東進。低気圧付近からシアールラインがのびている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

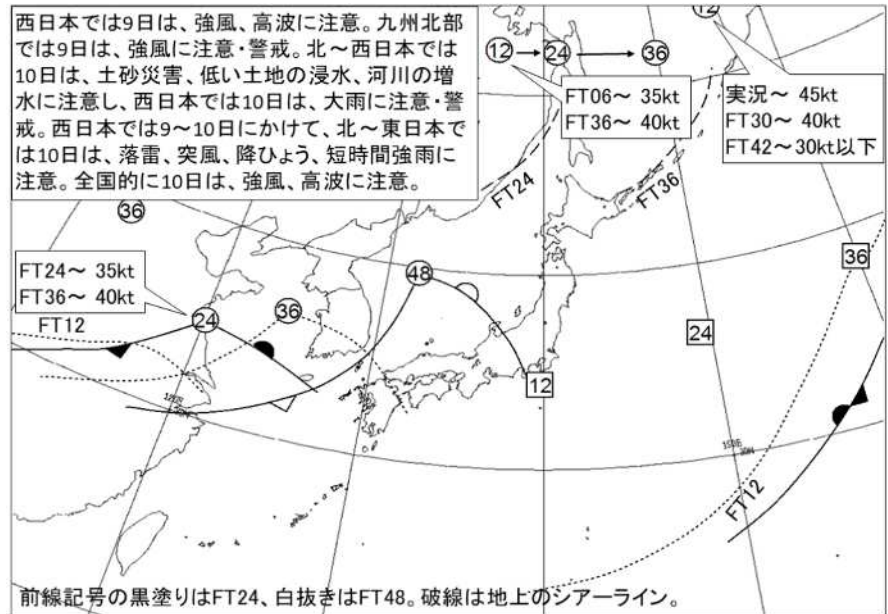
- ① 1項①の高気圧は9日朝にかけて、日本の東へ移動し、その後、日本のはるか東へ遠ざかる。8日夜までに1項②の華中の正渦度極大域に対応した前線が発生し、黄海へのびて、9日朝までに山東半島付近で前線上に低気圧が発生する。低気圧は、次第に500hPa 5520m付近のトラフに対応しながら発達し、10日朝にかけて日本海へ進み、前線は東日本から対馬海峡付近を通り華中へのびる。1項③のオホーツク海の低気圧は、9日にかけてカムチャツカ半島付近へ北上し、日本から遠ざかるが、1項③のアムール川中流付近の低気圧が、9日夜にかけてオホーツク海へ東進し、低気圧付近からのびるシアールラインが北海道付近を通過する。これらの低気圧と日本付近の高気圧との間で気圧の傾きが急となり、非常に強い風が吹き、しける所がある。北日本では9日にかけて、西日本では9日は、強風、高波に注意。九州北部では9日は、強風に注意・警戒。
- ② 2項①の日本海へ進む低気圧は、10日夜にかけて日本海北部へ北上する。前線は、10日夜にかけて、西日本から東日本へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴う激しい雨の降る所がある。低気圧や前線及びシアールラインの影響で、非常に強い風が吹き、しける所がある。北～西日本では10日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意し、西日本では10日は、大雨に注意・警戒。西日本では9～10日にかけて、北～東日本では10日は、落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意。全国的に10日は、強風、高波に注意。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、全国的に9～10日にかけて、平年差10℃以上に昇温し、降水の影響も加わり、雪解けの進む所がある。北～東日本の多雪地では10日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の日本海を北上する低気圧の勢力の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北海道・九州北部4、東北・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図